

重粒子線治療を受けた皆様へ（臨床研究に関する情報）

放射線医学総合研究所病院の看護科では、2006年に電子カルテの導入と共に、「NANDA - I(ナンダイナターナショナル)看護診断」を導入し看護介入を行っています。看護診断とは、患者さまの病気の症状や心身の状態から、どのような看護を行ってあげれば良いのかを決める上で共通言語を用いて行う看護介入方法です。看護診断を使用するメリットとしては、問題点をすべての看護師が同じ認識で把握できる、診断ラベル(患者さまの問題状況)ごとに定義や診断指標があり、正確な診断がしやすい、個別性のある看護が提供できる、電子カルテに利用しやすいなどがあります。この研究は当病院で重粒子線治療を受けた患者さまの看護診断ラベルの実態調査を行い、看護診断ラベルの傾向と特徴を明らかにすることを目的とします。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをご存知になりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] 重粒子線治療を受けた患者のNANDA - I看護診断ラベルの実態調査
(実施期間：2017年8月21日～2020年4月30日)

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所病院

[研究責任者] 深尾 千枝子

[研究の目的] 重粒子線治療を受けた患者さまの看護診断ラベルの実態調査を行い、看護診断ラベルの傾向と特徴を明らかにすることを目的とします。

[研究の方法・データの利用方法]

●対象となる方々

2013年12月1日から2016年12月31日までの期間に重粒子線治療目的で入院された患者さま。

●利用する情報及び利用方法

電子カルテの看護記録から病名、年齢、性別、入院日数、総線量、看護診断ラベル名、ラベル数、診断指標、関連因子、危険因子

2019年3月までに得られたデータを情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計します。
新たな質問はありません。

[個人情報の取り扱い]

患者の権利と安全を守り外部と共有される研究データからは、お名前、ご住所、その他の個人を直接特定できる情報は削除します。また、研究成果は、解析した全体の数字として学会や学術雑誌で発表されますが、その際に個人名などが表に出ることは絶対にありません。（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。）

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、2018年3月31日までに下記窓口にお申し出くださるようお願い致します（この期間を過ぎると個人識別できない情報は取り除けなくなることがあります）。ご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区六川4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST病院

担当者；深尾 電話：043-206-3306（平日9時～17時）

